

カルメル

霊性センターニュース

2022年2月

383号

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

『新千年期の初めに』から 第三章「キリストからの再出発」 29 より

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28・20)。

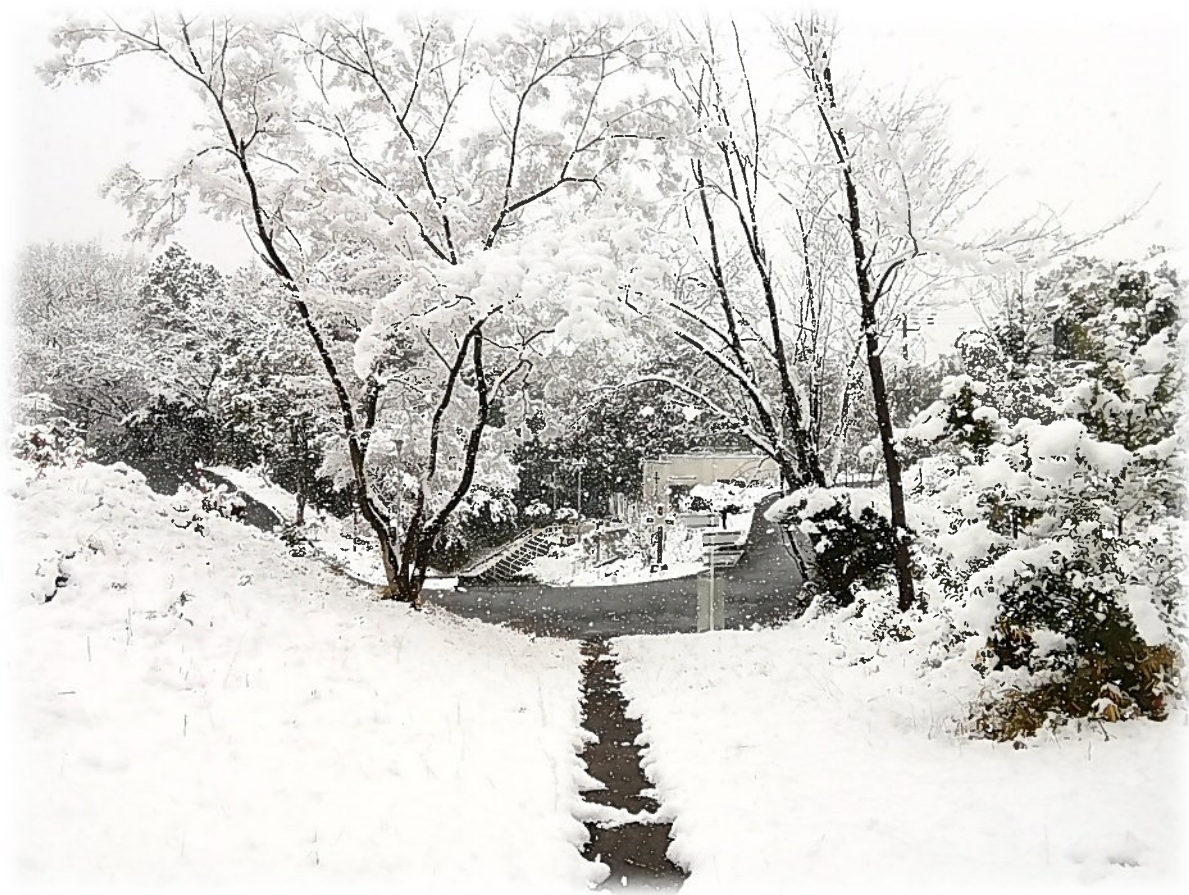
わたしたちの間に現存される復活のキリストを意識しながら、かつてエルサレムで、聖霊降臨の説教のすぐ後でペトロにされた質問を、きょう、わたしたち自身にも投げ掛けましょう。「わたしたちはどうしたらよいのですか」(使徒言行録 2・37)と。わたしたちは、いろいろな問題を軽く見ることなく、信頼に満ちた楽観主義をもって自分自身に問い掛けます。今の時代の大きな挑戦を前にして、即効的な解決法があり得るという単純な展望に惑わされてはなりません。そうです、解決法がわたしたちを救うのではありません。救いは、ある人物、そして、わたしたちに約束された確かさにあるのです。「あなた方と共にいる」(マタイ 28・20)



目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
通信深読お申込みのご案内	24
カルメル会の企画案内	25
東京	26
京都	30
キリスト教放送局 FEBC のご案内	32
諸所の企画案内	33
郵送お申込みのご案内	38
あとがき	39

心の泉



宇治カルメル会修道院



第三卷

第四十六章 辛辣なことを言われた時には、神により頼む

4 正しい審判者

人間の証言は誤りやすい。しかし、真理である私の裁きは、誰にも倒されることのない確固たるものである。ほとんどの場合、私の裁きは秘密であり、その裏の理由を推測できる者は少ない。私の判断は誤ることがなく、おろかな人がそれを不正だと言っても、決して私の判断は変わらない。だから何事を判断するにも、私により頼み、自分の狭い判断だけに頼ってはならない。正しい人は、神から「何を与えられても」(箴言 12・21)、うろたえない。自分が不正な判断を受けても、それを氣にとめず、また、他人が正しい理由をあげて弁護してくれても、過度に喜ばない。その人は、「人間の心と霊とを、深く探る神に見られていること」(黙示録 2・23)、表面的な理由で神に裁かれるのではないことを知っているからである。だから、人間の判断で称賛されることが、私には、罪であるように見える場合もよくある。》

5 子

《おお、主なる神よ、「正しく、力強く、忍耐強い審判者よ」(詩編 7・12)、人間の弱さと悪を知るあなたこそ、私の力、私のよりどころとなってください。なぜなら、自分の判断だけでは不十分だからです。あなたは、私の知らないこともご存じです。だから、他人から非難を受ける時、私はへりくだって柔和に忍ばなければならないのです。もしそうしないならば、そのたびに私をゆるし、より以上の侮辱を忍ぶ力をお与えください。ゆるしを受けるためには、自分が正しいと思っている、自分でも知り得ない心の秘密を弁護するよりも、あなたのあわれみを信じることのほうが有益です。「自分の良心にやましいところがないにしても、それだけであなたのみ前に正しい人であるとは言えません」(一コリント 4・4)。あなたのあわれみがなければ、「誰一人として、み前にあって正しい人とは言えないのです」(詩編 143・2)。》



主よ、
あなたが望まれるすべてのことに わたし自身をささげます。
それが平和、よろこび、あるいは闇、苦しみであっても。
あなたが神のみ旨に忠実であったように、
すべての神の望みに素直に従う柔軟さを、
主よ、わたしに教えてください。

～福者マリ―ユジェーヌ神父の叙階の日の日記より～
今年には福者の司祭叙階(2月4日)、カルメル会入会
(2月24日)100周年にあたります。

神はわたしたちに直接に、
明確に語られることはほとんどありません。
たいていの場合、ある出来事とか、状況の中で、
わたしたちの心の深みに何かインスピレーションを吹き込まれます。
しかし、その実行、実現の過程での困難を、
ほとんどの場合取り去ろうとささいません。
それどころか、むしろ困難は増すばかりのようにさえ思われます。
それはひとえに、
主ご自身こそが語られ、働かれるのだと示すためなのです。

神のすべてのみ業は試練によって刻まれるのです。

～福者マリ―ユジェーヌ神父～



ルルドで祈る福者

コロナ禍が依然として続きそうな2月の日々の生活でも、聖霊はわたしたちを常に導いて
おられることを信じ、希望して…



伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（50）

九^{くの}里 彰

今回は、神への愛と人への愛が表裏一体をなしており、二種の愛は切っても切れない関係にあることを指摘した。神を愛すると言いながら、人を愛さない人は偽りの愛を生きているのであり、人を愛していると言いながら、神を愛さない人は不完全な愛を生きているということである。そしてレビ記の隣人愛に触れた箇所を引用した。

復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。（19・18）

隣人愛については、キリストが「隣人を自分ように愛さない」と言われた（マコ 12・31）ので、この表現が一般によく知られているが、レビ記では「自分自身を愛するように」となっている。自分自身を愛さない人は、だれもいない。自己嫌悪に陥っている人でさえ、というか、そういう人こそ、だれよりも自分自身を愛しているので、自分が望むような自分でない現実を意識することによって、逆にその自分を受け入れらず、その自分を裁き、嫌うのである。

いずれにせよ、厳密に自分自身を愛するように隣人を愛することは、至難の業であろう。実際、家族や友人の間でも、そこまでの愛を生きている例は、数少ないのではないだろうか。

しかしここでは、さらに難しいことが要求されている。「復讐してはならない」という言葉から分かるように、隣人とは「復讐したい相手」を指している。「恨みを抱いてはならない」という言葉からは、恨み骨髄に達している人々指しているのである。

そうなると、大変なことである。復讐したい相手、恨みを抱かざるを得ない人々を、隣人として「自分自身を愛するように」愛せということになるからである。ここからは、以前にも指摘した、「敵をも愛せ」というキリストの教え（マタ 5・43-48）が導き出される。

あなたがたも聞いているとおり。「隣人を愛し、敵を憎め」と命じられている。しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（165）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

クリスマスのお祝い②

そしてその詩（グロサ）を歌いながら、ドアからドアへと歩きました。あらかじめそこに配置された修道者たちは中からそっけなく答え、彼らを追い払おうとします。聖人はこれにおだやかな言葉で答え、宿泊者はどのような方たちかを説明します。願っているのは、出産まぢかのおとめであり、ずっと以前から待ち望まれ、そして今がその時だと。彼が見出した言葉と高潔さの熱情は、彼に耳を傾ける人々の胸を打ち、その神秘と神への大いなる愛を彼らの魂に刻み込みました」。

修道院の年老いた香部屋係、神の母のガブリエルは、グラナダでの或るクリスマス・イブを忘れることができませんでした。その時も、修道院の回廊を通過して、一時間以上続く劇や行列をしながらお祝いしました。行列は真夜中に教会に着きました。福音書の横には、馬小屋が作られていました。枝やワラや土で作った小さな小屋にはラバや牛や聖ヨゼフの像が置かれていました。

一行は洞窟の中にいるおとめマリアのところに着きました。すべての者が先ほど誕生したばかりの幼子を礼拝しました。お祝いは、「過去のことを表すのではなく、今見ていることが、その時、あたかも自分たちの目の前で起きているかのようになる」ほどリアルなものでした。



(P. 九里訳)

年間 第5主日

(ルカ5：1－11)

おびただしい数の魚がとれた後、ペトロはイエスの前にひれ伏して言いました。

「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです。」

彼はイエスの偉大な力を前にして、自分自身の小ささ、罪深さを謙虚に認めたのです。彼は、その直前、網を降ろすよう指示するイエスにこのように言っていました。

「先生、わたしたちは、夜通し苦勞しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう。」

直前まで、彼はイエスを「先生」と言っていました。「お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」と言いながらも、内心では「無理、無理」とぼやいていたのではないのでしょうか。「あなたは宗教の立派な先生ですが、我々は漁師ですよ。プロですよ。」というおごりがあったのではないのでしょうか。

しかし、とれた魚を前にして彼は、イエスは先生ではなく「主だ」と悟ったのです。そして、ひれ伏し、拝んだのです。これは、ペトロの言葉と態度による信仰告白でした。信仰告白とは神の前に身を低くすることです。神の聖性を前に、自分の罪深さ卑しさを認め、憐みを願うことです。

ペトロは、あまりにもイエスになれなれしく接してきたこと、イエスの言葉を軽んじたこと、「先生」と呼ぶだけでは失礼であったことを悔いたのだと思います。その他にも、自分の中の不完全さ、過去の過ち、心の汚れなどを見つめながら、イエスの前にひれ伏したのだと思います。

神の威光を前にしたイザヤも思わずこう口にしました。

「災いだ。わたしは滅ぼされる。わたしは汚れた唇の者。」(イザヤ6・4)

しかし、そんなイザヤの口に神は炭火を触れさせて言いました。

「見よ、これがあなたの唇に触れたので、あなたの咎は取り去られ、罪は赦された。」
「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。」

イザヤは答えました。

「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」(同6・8)

自らの罪や卑しさを認めへりくだる者を神は喜ばれます。イエスもペトロのへりくだりと信仰告白を受けとめ、彼に力を与えます。

「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」

こうして、ペトロはすべてを捨ててイエスに従う者となりました。それは、どんなものよりもイエスを最優先して従う者の姿でした。その姿には本気が感じられます。生命力が満ちています。

真の礼拝は、神がその人に力を与えます。神の前に自分の罪深さ、卑しさを感じながらも、それを助け起こし、使命を与えてくださる神の力が注がれるのです。イエス様という神のメシアの前で、己の真の姿を謙虚に認めお祈りしましよ。イエスは生きる力を注いでくださいます。

(今泉健 神父)

年間 第6主日 (C)

(ルカ6：17、20-26)

本日の福音は、平原での説教と呼ばれるものの始まりです。マタイの福音と類似しています。マタイでは、山上の説教と呼ばれています。マタイとルカの福音書にある真福八端の形式は非常に独特のようにみえますが、これは旧約聖書の詩編や知恵の書にもあります。これらは、誰が神の恵みを見出すかを教えています。この文節にある「Blessed」という言葉は、「幸せである」とか、「幸運である」、あるいは「恵まれている」などに翻訳できるかもしれません。

本日の福音で、イエスは弟子たちに貧しさ、飢え、悲しさ、迫害を逆説的な幸いとして教えています。「貧しい人、飢えている人、泣いている人、憎まれている人、追い出される人、ののしられる人、汚名を着せられる人は幸いである」。これらの真福八端には、全て隠れた霊的な意味があります。貧しさにおいて私たちは神への頼りを認めます。飢えにおいて神の摂理を信じます。罪を悲しむことで神と和解し、迫害により私たちは強い信仰と確信に内的喜びを経験します。私たちはイエスの生活に倣って生活するとき、真の「幸福」あるいは「幸い」を経験します。このように「真福八端」は、未来の栄光と永続する幸福との見地から現在を評価する終末的な言葉として理解しなければなりません。

ルカの福音で「災い」のリストも読みます。神による幸いであると描写されている人々が、差し迫った危険を警告されているのです。富んでいること、満腹していること、笑っていること、名声があること、これらは永遠の幸福の源泉としてあてになるものではありません。これらは当面の喜びを与えるとしても、永遠に継続するものではありません。私たちがこれに信頼を置けば、危険に導かれるでしょう。

真福八端は、私たちキリスト者の生活の基本的枠組みといえます。私たちキリスト者の召命は、この世的には最高のものではありませんが、神の御目には最高のものです。真福八端へのチャレンジは、「この世的な道で幸福になりますか、あるいはキリストの道で幸福になりますか？」です。

(Sr. Paulina)

年間 第7主日

(ルカ6：27－38)

今日語られる福音は、「敵を愛しなさい」と「人を裁くな」の最初の部分になります。イエスが人々に説かれる言葉、また語られた内容は人々を驚かせたに違いありません。

直前の福音箇所では、「貧しい人々は幸いである、神の国はあなたがたのものである。」今飢えている人々は幸い、今泣いている人々は幸い、…とイエスは幸いを語られた後、対照的に、富んでいるあなたがたは不幸、今満腹している人々、あなたがたは、不幸、今笑っている人々は不幸…と語られ、人々は大いに驚き、その後、さらに驚くことに。

イエスは、敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にせよと言われます。さらには悪口を言う者に祝福を祈り、侮辱する者のために祈り、求める者には、だれにでも与え、人にしてもらいたいと思うことを、人にもせよと言われました。

人にしてもらいたいと思うことを、人にすることは、人と人との関わりの中で生きている私たちにとって関係性を良くすることは、すでに行っていることかも知れませんね。イエスは、自分を愛してくれる人を愛する、自分によくしてくれる人に善いことをする、返してもらおうことを当てにして貸す。これらは罪人でもしていること…と言われます。

罪人でもしていることではないことをするよう、弟子たちに語り、導こうとされます。敵を愛し、人に善いことをして、何も当てにしないで貸しなさいと。ひたすらに愛して、ひたすらに与える。これは私たちが愛して下さる神のなさることですね。あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。神の子である私たち、天の父に倣って歩むことが、生きることが出来ますように。

そしてイエスは、人を裁かない様に、人を罪人だと決めない様に、赦す様に、与える様に…と言われます。その様にするならば、裁かれることがなく、罪人だと決められることがなく、赦され、与えられるからです。私たちは自分のことを忘れてしまい、自分のことを棚に上げ、他人を批判し、悪く言ったり、裁いてしまいがちですが、そうならない様に心に留めることができればと思います。自分の量りをあふれるほどに良くし、神の子としてふさわしく歩んでゆくことができますように。

(Fr. 古川利雅)

年間 第8主日 (C)

(ルカ6 : 39 ~ 45)

「人の口は、心からあふれ出ることを語るのである」

本日のルカによる福音は、「平地の説教」と呼ばれ、イエス・キリストのまことの弟子となるための方法が描かれています。ここで取り上げられているのは、自分自身と他者への友好的な見方との間の統合性についてです。イエスは、盲人が盲人の道案内をするというユーモアのあるたとえを用いながら、他者の言動を性急に判断してしまう私たちの姿勢をとがめます。このほか、自分の目の中の丸太に気づかず兄弟の目の中のおが屑を取ろうとする者、茨からいちじくは採れないことや野ばらからぶどうは集められないこと等のたとえが登場します。

自分の目の中の丸太に気づかず、他人の目の中のおが屑を取ろうとする最も分かりやすい例は、ヨハネによる福音書にあります。律法学者たちが姦通の現場で捕らえられた女をイエスの前に連れて来た場面です。女に確かに罪を犯しましたが、律法学者たちの罪の方が格段に重い点を明るみにしながらイエスはこう告げました。「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい」(ヨハネ8 : 7)。

「木はその実で分かる」という古いことわざがあります。一見、高潔な人物がいたとしましょう。その人は他者に関してどう発言し、他者をどのように扱っているのでしょうか？ 私たちの外面的な言動によって私たちの内面の状態が明らかになります。私たちの行動には、その良し悪しに関係なく、自分の心が投影されるからです。しかし私たちは、自分を省みずに他者の言動にばかり注目します。私たちは罪や弱さを抱えているからこそ、他者の欠点をここまで正確に見抜けるのかもしれませんが。

今日の福音は、人を早まって裁かないようにと私たちを招きます。イエスが禁じているのは、否定的かつ破壊的に裁くことです。その一方で、建設的で役に立つ批評は、時として必要です。キリスト者の召命は、兄弟姉妹たちを愛し、理解し、認め、励ますことです。

(Sr. Paulina)

いのちの言葉 2月

わたしのところに来る人を、わたしは決して追い出さない。

(ヨハネによる福音書 6・37)

イエスのこの言葉は、奇跡によってパンが豊かに増やされた出来事の後、群衆がイエスを探し求め、イエスを信じるためのしるしを再び求めるやりとりの中での一言です。

イエスは、ご自身こそが神の愛のしるしであると語ります。実際イエスは、御父からあらゆる被造物と、特に、神の似姿として造られた人をすべて迎え入れ、御父の家に連れ戻すという使命を受けた御子でおられます。御父ご自身が先にご自分の方から、すべての人をイエスのもとに引き寄せられました¹。そして、満ち満ちたいのち、すなわち、神とすべての人との交わりを、人の心が望むようにされました。

ですからイエスは、たとえ神から遠く離れていると感じている人であっても、誰も一切拒むことはありません。「誰も失わない」ことこそが御父のみ心だからです。

わたしのところに来る人を、わたしは決して追い出さない。

まさにこれこそ、良き知らせです。神はすべての人を限りなく愛しておられ、その優しさと憐みはすべての人に向けられています。神は忍耐強く、慈しみに満ちた父として、内なる声に促されて歩み始める人すべてを待っておられます。

私たちはしばしば、「なぜ私がイエスに歓迎されるのか。私から一体何を期待するのだろうか」という「疑い病」にかかっています。

実際には、イエスが求めておられるのは、ご自分の無償の愛を信頼して受け入れることができるよう、私たちの心を占めるすべてのものから自由になって、ご自分に引き寄せられるままにするようにということだけなのです。

しかし、それは同時に、私たちの責任を呼び起こす招きでもあります。イエスのこれほど豊かな優しさを体験すると、私たちもまた、あらゆる隣人²—男性も女性も、若者でも高齢の人でも、健康でも病気で、自分の文化圏の人もそうでない人も—の内におられるイエスを受け入れるようにと促されます。そして、私たちは誰のことも拒まないでしょう。

わたしのところに来る人を、わたしは決して追い出さない。

カナダのケベックで、み言葉を生きているキリスト教共同体は、フランス、エジプト、シリア、レバノン、コンゴといった国々から到着する多くの家族の受け入れに尽力しています。こうした家族がケベック社会に入っていけるようにも支援しています。具体的には、彼らの多くのニーズに応え、難民や定住者認定に関

する書類を作成し、子どもたちの学校を調整し、居住区域を一緒に回って案内します。また、フランス語講座の受講申し込みや仕事を探す手助けも重要です。

ギーとミシュリーヌの報告です。「内戦から逃れるためにカナダに避難しているシリア人のある家族は、カナダに到着したばかりでまだひどく困惑している別の家族に出会いました。SNS を通じて連帯のネットワークを広げ、多くの友人たちが必要なものをそろえました。ベッド、ソファ、テーブル、椅子、食器、衣類、本、そして子どものおもちゃなどは、仲間の家族の子どもたちが親の様子を見て自分たちから差し出してくれました。必要以上のものを受け取った彼らは、今度は同じアパートに住む貧しい家族の人たちを支援しました。その月のいのちの言葉はまさに「隣人を自分のように愛しなさい」でした。

わたしのところに来る人を、わたしは決して追い出さない。

このみ言葉を私たちもどのように生きればよいでしょうか。すべての隣人を前に、御父がそばにいてくださることを、個人としても、共同体としても、証しすることです。

これについての、キアラ・ルービックの黙想は助けになるでしょう。キアラは、憐みの愛についてこう書いています。「...悲しみ嘆く人々、[...]人生に引き裂かれた人々、悔い改めた罪人たちに、心と両腕を大きく開く愛です。間違いを犯した隣人や友人、きょうだい、そして見知らぬ人を受け入れ、何度でも赦す愛です。(…)それは、計ることをせず、また後で計られることもない愛です。この人たちの中には、以前よりはるかに豊かで、普遍的、具体的な愛が生まれます。そして魂の内にはイエスの心にも似た気持ち芽生え、人と出会う度に、イエスと同じく『わたしはこの人々を憐れに思う』（マタイ 15・32 参照）と言うようになるのです。(…)憐みは愛の究極の表現であり、愛を完成させるものです。愛は苦しみを乗り越えます。苦しみはこの世のものであり、愛は永遠に続くものだからです。神は犠牲よりも憐みを望まれるのです。」³

レティツィア・マグリ

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1 ヨハネ 6・44 参照

2 マタイ 25・45 参照

3 キアラ・ルービック「苦しみを知った時」『プリズム—現代の人々に送る黙想集』P. 63
より 1996 年フォコラーレ発行

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2021年12月21日

私たち跣足カルメル修道会の兄弟である
ゲオルグ・デズモンド・タンバラ司教と
ピーター・チュン・スンテック司教からのニュース



マラウイ発：

2021年10月15日、教皇フランシスコは跣足カルメル修道会のゲオルグ・デズモンド・タンバラ司教にマラウイのリロングエ大司教区の司教として奉職するよう転任の辞令を出されました。

マラウイ大司教区は、2020年12月14日のタルチシオ・ジェルバジオ・ジヤエ前大司教の帰天以来、大司教が空席状態でした。

この度、選出されたゲオルグ・デズモンド・タンバラ大司教は、2016年1月30日に司教に叙階された後、ゾンバ教区の指導的立場にありました。彼は、1995年8月15日に終生誓願を立て、1996年4月13日司祭に叙階されました。1998年に彼は、CITeS（カルメル会国際テレジア霊性神学大学）での勉強のためスペインに渡り、2000年にファカルティ・オブ・ノーザンスペインで神学の資格を取得しました。その後は、マラウイのリロングエ大司教区のカピリ司教代理、志願者養成主任と霊性指導司祭、マラウイのブランタイヤ大司教区の霊性ハウスの長上など、多くの役職を歴任しました。彼は、司教に叙階される前、1995年10月15日にアフリカとマダガスカルの大司教代理でした。

韓国発：

2021年10月28日、教皇フランシスコは跣足カルメル修道会のソウル大司教区ピーター・チュン・スンテック補佐司教をソウルの大司教と北朝鮮のピョンヤン教区使徒管理者に任命されました。彼は、1961年8月5日に大邱で生まれ、初めに1983年～1986年までソウル大学で化学工学を学びました。その後、ソウルのカトリック大学で1986年～1992年まで哲学と神学を学び、1992年1月25日に終生誓願を立て1992年7月16日に司祭に叙階されました。

1993年～1997年、彼は修練院長と2年間神学生の指導者を務めました。1999年～2004年ローマの教皇庁聖書神学院で旧約聖書を学び、2005年から3年間 韓国の跣足カルメル修道会管区顧問になりました。そして2009年にローマで東アジアとオセアニアの総長顧問に就任しました。

(翻訳：小宮山延子)

糸巻き棒からペンへ(72)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

聖女は、次のように述べています。「(その時まで)、私はまだ、どういふふうに念祷するのか、またどのように精神を集中するべきかを知りませんでした。それでこの書を開いた時の私の喜びはとても大きゅうございました。そして、この書にある祈りの道に全力をあげて従おうと決心いたしました」(『自叙伝』4,7)。

キリストの生涯や自己認識について黙想する祈りを、後に、「念祷の第一段階」と呼ぶこととなりますが、その祈りを、彼女は実践し始めます。良書を読むことやキリストの姿に目を注ぐこと、また自然を観想すること(その中に創造主の足跡を見ていました)が、彼女を助きました。修道院の病室にとどまった三年の間、彼女は多くの時間を念祷に捧げ、また他の人々に念祷するよう教えました。彼らは彼女の忍耐と快活さに驚嘆しました(同6,4)。彼女の父親自身が、彼女の弟子となりました。

試みにあつた念祷

27歳頃に彼女は、健康を回復します(同6,8)。奇跡的な癒しの出来事や彼女の含蓄ある言葉やもって生まれた魅力から、多くの人々が彼女と会話するため、また自分の抱えている問題を相談するために修道院の面会室にやって来ました。会話は長引き、やがて取るに足りない話題となり、単なる気晴らしへと変わって行きました。面会することは、とても必要とされていた修道院への献金となったため、だれにとっても良いことと思われました。ここで、悪魔は、彼女の全生涯の中で、謙遜を装った最大の誘惑を引き起こしました。テレジアは、完全な人間のみが神と交わるにふさわしいと確信し、自分がこんなに不完全であるのを見て、念祷に近づくにはふさわしくないと感じたのです。「念祷(心の祈り)をすることに恐れを感じ始めました」(同7,1)。彼女はこの疑いをはっきりさせたいと心から望んでいたのですが、相談できる人にはだれにも出会いませんでした。機会は、父親の病氣と死によって訪れました。父親を世話していた時、聴罪司祭と話す機会を持ったのです。彼は、しばしば聖体拝領し、念祷をとりもどすよう彼女をはげました。

(P.九里訳)

カルメル誌 新刊案内



2021年 冬号 No.383

- 信仰生活(再)入門(15) 聖書に学ぶ祈りの道(7)
—「聴くこと」と「祈ること」 片山はるひ
- 道の霊性(8)—天使が守る道 田畑邦治
- カルメルにおける「幼きイエス」 伊従信子
- 聖ヨセフ ポーリン・フェルナンデス
- キリストの説かれた 幸いなる道(4) 九里 彰
- 霊的研究会講義録(14)—聖書・祈り・愛について 奥村一郎



2021年 特集号

- 「向こう岸に渡ろう」
—パンデミック後の選択—
- 向こう岸に渡ろう
—四旬節：パンデミックの中での過ぎ越し 中川博道
- 人類は新たに生まれねばならない 九里 彰
- 神のいやしを行うイエス・キリストをみつめて…
—フランシスコ教皇さまの連続講話
「この世界をいやす」についての考察 松田浩一
- 同じ舟に乗る者たちとして
—『つながり』の霊性を求めて 若松英輔
- 何も咲かない寒い日—今を問う 大瀬高司

ご案内

1冊 580円 A5サイズ 50～70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

- お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。
〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新書紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

————— 目次 —————

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

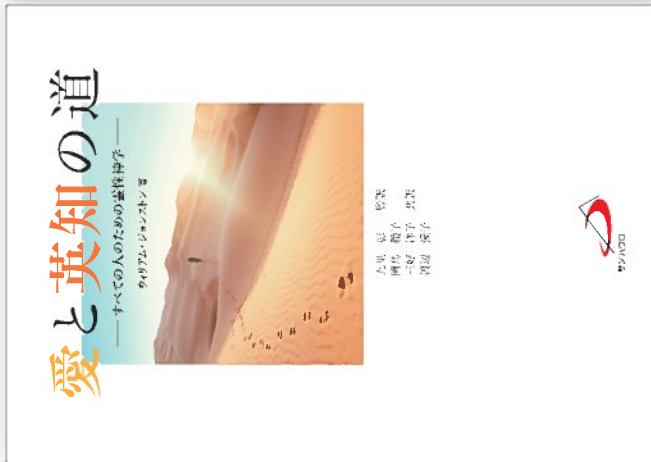
愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳

岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるからたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

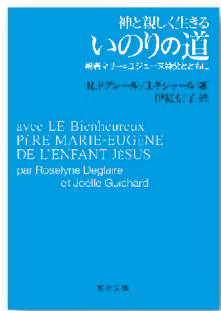
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



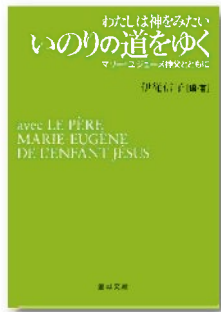
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

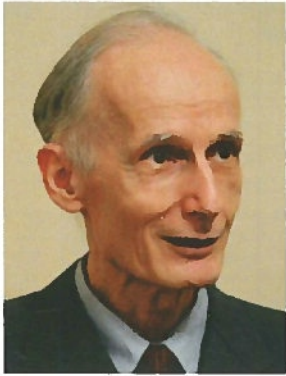
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館 〒113-0033 東京都文京区本郷1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>



奥村一郎選集

追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け——宗教対話／日本人とキリスト教——遠藤文学の魂

第3巻



日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい旋

第4巻



日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳

第5巻



現代人と宗教 解説・鶴岡賀雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／「新しい人」としての真人

第6巻



永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲慘を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰／人間の栄光と悲慘／神は死せり／十字架の秘義／人間と世界と神

第7巻



カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈りとは何か？

第9巻



奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。清らかな矛盾／世を変えるパン種として／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2022年~)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【聖週間】

聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも参加可能です。

4月14日(木)夕食~4月17日(日)朝食 《講話なし、各食3付》

【クリスマス】

12月24日(土)~25日(日)朝食 《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時~日曜日16時) 大瀬高史 神父

3月12日~13日

11月 5日~ 6日

4月23日~24日

6月 4日~ 5日

2023年

7月16日~17日

2月25日~26日

9月 3日~ 4日

- ・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日10時~16時・昼食付) カルメル会士

2月16日 3月16日 4月20日

5月18日 6月15日 7月20日 9月21日

10月26日 11月16日 12月21日

2023年 1月18日 2月15日 3月15日

- ・キリスト教霊性入門(木曜日10時~16時 昼食付) 松田浩一神父

2月3日 3月10日 4月7日 5月12日 6月2日

7月7日 9月1日 10月13日 11月3日 12月8日

2023年 1月12日 2月2日 3月2日

- ・一泊黙想会（土曜日16時～日曜日16時） カルメル会士

3月19日～20日	11月19日～20日
5月14日～15日	2023年
7月23日～24日	1月14日～15日
9月17日～18日	3月18日～19日

- ・奉獻生活者のための黙想会（初日17時～最終日朝食） カルメル会士

8月 1日(月)～10日(水)	
8月16日(火)～25日(木)	
12月27日(火)～2023年1月 5日(木)	

- ・青年黙想会(男女) 35歳まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士

3月26日(土)～27日(日)	
-----------------	--

- ・召命黙想会(男女)40歳まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士

11月11日(金)～13日(日)	
------------------	--

- ・カルメル会召命黙想会(男子)40歳まで（初日16時～最終日16時）
カルメル会士

2月26日(土)～27日(日)	2023年
4月 2日(土)～ 3日(日)	2月 4日(土)～ 5日(日)
7月 9日(土)～10日(日)	
10月29日(土)～30日(日)	

- ・特別黙想会(初日20時～最終日16時)Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

5月27日(金)～29日(日)	
11月25日(金)～27日(日)	

- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いづれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>



★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の靈性を生きることとおして教会に生涯を奉げる道があります。聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証ししていく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思ひます。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2021年 4月10日（土）～11日（日） 16時～翌日16時

6月12日（土）～13日（日） //

10月9日（土）～10日（日） //

12月11日（土）～12日（日） //

2022年 2月26日（土）～27日（日） //

会費：¥5000（3食付き）

*お問合せ お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL.03-5706-7355 FAX.03-3704-1789

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp



カルメル青年黙想会

イエスを求めて



日時 : 2022年3月26日(金)16時～27日(日)16時

場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

対象 : 青年男女(16歳～35歳まで)

定員 : 9名

費用 : 一般 5,000円 学生 3,000円

締切 : 2022年3月19日(金)

指導 : カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

電話 : 03(5706)7355

FAX : 03(3704)1789

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp



宇治カルメル会 黙想会案内 (2022年度～)

オミクロン株の感染急拡大により1月・2月の黙想会を中止致します。

【一般のための黙想】 中川博道神父

1泊2日 (土曜午後5時～日曜午後4時)

5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始

~~2/5～6~~ 3/12～13 4/9～10 4/9～10 6/4～5

9/17～19 (2泊) 10/29～30

2023年

1/14～15 2/18～19

【聖書深読】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

~~1/29~~ 3/19 4/23 5/28 6/25 10/8 11/19

2023年

1/28 2/25

【水曜黙想会】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

3/16 5/18 6/15 7/13

9/21 10/26 11/23

【ゴールデンウィーク黙想会】 中川博道神父

4/29 (金) 夕食～5/6 (金) 朝食

参加期間は、全日通しでもどの曜日からでも自由です。

【カルメルの霊性】 (午後5時～午後4時) 中川博道神父

幼きテレジア 10/1 (土)～2 (日)

十字架の聖ヨハネ 12/17 (土)～18 (日)

【奉献生活者の黙想】 (午後5時～午前9時) 一般可

7/23 (土)～8/1 (月) 中川博道神父

8/4 (木)～13 (土) 松田浩一神父

9/5 (月)～14 (水) 中川博道神父

10/13 (木)～22 (土) 中川博道神父

12/27 (火)～1/5 (木) 中川博道神父

【祭日のミサに参加するために】

*<聖週間を祈る>

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
聖木曜日から復活祭まで通してどの曜日からでも参加可。(講話なし 食事つき)

*<クリスマス>

12/24~25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
(講話なし 食事つき)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時~午後5時の間をお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

キリスト教放送局

FEBBC 2021.10~2022.3

2021年秋冬 AMラジオ放送 毎夜9:30~ (全国放送)

番組案内 インターネット放送 www.febcjp.com (毎日更新)



日

夜9:30~

全地よ主をほめたたえよ

主日礼拝取材番組

- [第1]日キ教会 高知旭教会
- [第2]日基教団 石動教会
- [第3]ホーリネス教団 東京中央教会
- [第4]日基教団 小岩教会
- [第5]日基教団 久万教会

月

[月~金] 夜9:30~

FEBBC TODAY - 今日の聖書・今週の讃美歌 -

恵子の郵便ポスト

FEBBCメインパーソナリティー 吉崎恵子

火

水

木

金



夜9:48~

聴く信仰

「いのち」をいただく 御言葉黙想 山内十束



夜9:47~

ダビデのひこばえの到来

竹森満佐一 日基教団元教師

夜9:47~

嘆きに応える 神の御言

金田聖治 日キ教会 上田教会教師

夜9:47~

Session - イエスのTuneに合わせて

早矢仕宗伯 「NCAMイエスの風」教師 塩谷達也 コスベル 長倉崇宣 シンガー

土

イエスとの対話の旅 - 現代霊性神学講座

中川博道 カトリック・カールメルケル会宇治修道院司祭

[第1]夜10:25~

外からの「声」 - FEBC HANGOUT!

[第2]夜9:37~

イエスのことば、その根(再)

雨宮神父の福音書講座 雨宮 慧 長倉崇宣 カトリック東京教区司祭、上智大学神学部名誉教授

[第3~4]夜9:37~

生きるとは、キリスト

小林和夫 ホーリネス 東京聖書学院教会教師

[第3~4]夜10:20~

MeguのCCM insight!

土

夜9:30~
ボン・ハップアー著 『共に生きる生活』を読む(再)
江藤直純 ルーテル学院 大学前学長 吉崎恵子

夜9:53~

Kishikoのひとりじゃないから

[第1~3]夜10:04~
コーヒー ブレイク・インタビュー

[第4~5]夜10:04~

交わりのことば

夜10:31~

聖歌を味わう

[10~12月] テゼ・和解のうた 植松功

[21.1~3月] 正教会

マリア松島純子

夜10:11~

五十嵐ジュンの Contemporary Christian Music

主よ、絶望を担うキリストよ 関野和寛 日本福音ルーテル教会教師、チャプレン

夜10:14~

聖書を開こう

山下正雄 RCMメディア ミニストリー代表

夜10:14~

主に向かって歌おう

飯 靖子 日基教団 藍南教会 聖歌隊指揮者・オルガニスト

夜10:14~

Echo of Voices

長倉崇宣

夜10:28~

FEBBC Sprout!

長倉崇宣

夜10:28~

ふらっとトーク

中川信一 長倉崇宣

夜10:28~

神からのメッセージ

グレゴリオ聖歌 橋本周子 聖グレゴリオの家 宗教音楽研究所所長

夜10:27~

聖歌を味わう(再)

[10~12月] テゼ [21.1~3月] 正教会

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2022年 — 祈りの集いのご案内

イエス様のように祈る

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

- 1月13日 「御旨を行う」（詩編40：9）
2月10日 「私が父の家にいるのは」（ルカ2：49）
3月10日 「イエスも洗礼を受けて祈っておられると」（ルカ3：21）
4月 7日* 「イエスはひざまずいてこう祈られた。父よ、
御心なら、この杯を」（ルカ22：42）
5月12日 「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます」（マタイ11：25）
6月 9日 「イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた」
（ルカ6：12）
7月14日 「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します」
（ヨハネ11：41）
8月 休み
9月 8日 「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」（ルカ23：46）
10月13日 「イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて」（ルカ22：19）
11月10日 「イエスは天を仰いで言われた。父よ・・・」（ヨハネ17：1）
12月 8日 「天におられる、私たちの父よ・・・」（マタイ6：9）



予約は前日の16：00まで

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
フォローアップ 新 I	3/6(日) 9:30-16:00	サダナ チーム	★ニコラバレ修道院 (四ツ谷) この日のミサはありません	来間(くるま) 裕美子※ 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo. co.jp
サダナ II	3/17(木)17:30- 21(月・祝)16:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院 (小金井市桜町)	同上
フォローアップ	4/10(日) 9:30-17:00	同上	シャルトル聖パウロ修 道女会九段修道院 (千代田区九段北)	同上
入門 A	4/24(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会リヒト宣教 会(市ヶ谷)	同上
リピーターの 会@那須	4/29(金・祝) 9:00- 5/1(日)14:00 (前泊可)	同上	ベタニア修道女会ヨゼ フ山の家 (栃木県那須郡那須 町)	同上
ダイアリー	5/2(月)17:30- 5/6(金)16:00	同上	上石神井無原罪聖母 修道院(練馬区)	同上
名古屋入門 A	5/15(日) 9:30-17:00	同上	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.
入門 B	5/22(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会リヒト宣教 会(市ヶ谷)	来間(くるま) 裕美子※

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、

090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel.&Fax : 042-325-7554

★変更になる可能性があります。

●フォローアップおよびリピーターへの参加…
サダナ I を終えていること。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14:00～16:00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2022年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの指示により、当分の間中止となりました。再開については、再度紙面にてお知らせ致します。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき . . . つぶやき . . .

一見穏やかそうに始まった 2022 年は、Covid19 オミクロン株感染の急拡大で様相を一変し、わたしたち京都教区もまた新たに、厳しい感染対策を強いられはじめました。

このパンデミックの 2 年近くで学んだことのひとつは、“ひとつを乗り越えても、また次の課題がやってくる”という、当たり前すぎる人生の現実です。

その都度、科学技術の力によって乗り越える人類の英知のおかげで少しずつ前へと進んできたのが、ホモサピエンスの刻んできた歴史なのだと、ひとり納得します。近世以来の“人間は科学によってあがなわれる”という知的潮流が、世界を改善してきたことは確かですが、その半面、科学の“進歩とは、投石器から原子爆弾への進歩です”（『希望による救い』54～55 頁、48 頁参照）という現実も忘れることはできません。乗り越えても、乗り越えても訪れる次なる課題を前に、本当の解決、人間の救いとは何かを、立ち止まって熟考することを強いられます。フランシスコ教皇の『パンデミック後の選択』の言葉が響いてきます。

「主はこの試練の時を選びの時とするよう求めておられます。あなたの裁きの時なのではなく、わたしたちの決断の時です。何が重要で、何が過ぎ去るものなのかをえり分ける時、必要なものとそうでないものとを見分ける時です。主なるあなたに対しての、他者に対しての、生きる道を定め直す時です。」

(27～28 頁)

「科学は人間をあがなってくれません。人間をあがなうのは愛です。…絶対的な革新を伴う、この絶対的な愛が存在すれば、その時、人間はあがなわれます。」（『希望による救い』55 頁）との教会の確信から、“解決法がわたしたちを救うのではありません。救いは、「わたしは世の終わりまでいつもあなた方とともにいる」と言われるお方との出会いの中にこそあるのです”という結論に至ります。

(Fr. 中川博道 o. c. d)

